

令和元年度 上伊那圏地域自立支援協議会議事録

会議	名称	第2回重心・医療的ケア部会	参加者数	66人	会場	伊那養護学校寄宿舎 ひまわりルーム
	日時	令和元年 7月 2日 (火) 10:40 ~ 12:20				
主テーマ	<p>1 医療、老健、事業所等関係機関の受入れに関する進捗状況の確認</p> <p>2 保護者からの要望に対して(生活介護事業所の利用希望、入浴支援等)</p> <p>3 防災発生時の対策に関して</p>					
	<p>1, 挨拶</p> <p>① 伊那養護学校・片桐校長 大勢参加して頂き、ありがとうございます。各市町村の懇談もかなり盛り上がった様だが、限りある時間だが積極的なそれぞれの立場で意見を述べたいと思う。宜しくお願いします。</p> <p>② 部会長挨拶(大萱の里・堀川施設長) 多くの当事者(家族、市町村、各医療・福祉関係者等)が集まる機会はないので、是非声を聞かせて頂ければありがたい。家族からの声に対して、各関係者からの回答や見解等が出ると思うので宜しくお願いします。</p> <p>③ 部会副会長挨拶(かいご家・松本代表) 20年前にここにきていて懐かしく感じている。20年前、昨年と比較すると保護者の要望はなかなか実現できていないと思う反面、変わっている部分もあるので、諦めずに一緒に考えていきたい。</p> <p>議題</p> <p>1) 医療、老健、事務所の受入れについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医療の取組みに関して <ul style="list-style-type: none"> ・入浴に関して…訪問入浴+家族対応では足りない→辰野病院で医療型短期入所を利用し入浴を開始(1回/週) ・日帰りショートステイが拡大した。 ・信濃福祉医療センター…放課後等デイサービスを受け入れて頂く(1~2回/月、今年度はタイムケアも受入れ)。 ・昭和伊南病院 リハビリをメインのショートステイを行なっている。 7月からは2泊まで受入れを開始している。 ○入浴等、生活に必須なことから始めて、日中のショートステイまで繋がっている。本当にありがたいこと。生活に広がりが出てきつつある。 ●リハビリに関して <ul style="list-style-type: none"> ・『きらりあ』より県の委託事業として、学校(つくしグループ)へリハビリの講師を年間30回派遣することに。生活の場に必要な動きがある。 ・リハビリ担当より 「リハビリを学校で学習として取り入れられたらと思う。毎日来て頂けたら…」 ・更に広げていくには?『きらりあ』から具体案を聞きたい。 『きらりあ』小池療育コーディネーターより 県の委託事業としてOT、PTを派遣し、学校での生活の質の拡大を目指している。『つくしグループ』の生徒が信濃福祉医療センターまで通院しているケースが多く、そちらで受けているリハビリの情報を共有しづらいつつということで、今年度は派遣の講師やつくしグループの教諭、保護者の了承を得られれば講師を信濃医療に派遣して、受診の様子や実際にリハビリを受けているところを一緒に見てもらいながら情報共有し、普段の生活でも生かしていけたら…。 →地域のリハビリとも共有し、訪問リハや家庭での活動にも繋げていけたら…今年度が発端になればと考えている。 ●老健との取組みに関して <ul style="list-style-type: none"> ・ずっと重点課題として掲げている。 ・『はびろの里』と『フラワーハイツ』で受け入れてくれている。…実習等で丁寧な繋がりを心掛けている。 利用希望は本当に多い。 -保護者の声- 老健で支援に結びつくことに本当に期待しているが、なかなか人材がないということは本当に残念。何とか課題を克服し、利用が実現できたらありがたい。 ・老健→人材不足の解消がなかなか進まないのが現状。 『はびろの里』…介護長・大沢様 待たせてしまっているという状況で心苦しい。『はびろの里』では支援は介護職員が主に担っておりマンツーマンで対応している。現在100名が入所しており、受け入れとなると通常時より職員1名を多く配置しなくてはならない。最近、やっと介護職員が足りてきた状況なので、徐々に受け入れていくことができるかと考えている。また体制に関して、人員配置を2:1もしくは3:1で対応できないかと現場と調整中。もう少し待ってほしい。2:1、3:1で対応すると介護職員のスキルアップが必須。安易に受け入れてはならないと考えている。準備ができ次第、徐々に受け入れていけたらと考えている。 ・老健(『はびろの里』)には感謝の気持ちしかない。たいへんな中で生活の質まで考えて下さり、また十分な支援もして頂いている。今後も宜しくお願いしたい。 ○そんな中で…地域で何かを考えられないか? 保育士の雇用は? 専属で介護士を配置できないか? →保育士の資格を持っている職員もいるが、やはり高齢者の介護というところや老健の役割という部分からも介護士に拘っている(両方の資格を有している職員もいる)。また、その日は基本的に専属になるがずっとということはない。業務がシフト交換、食事介助、入浴支援…多岐に渡るので分業は検討できるかと思う。 →いろいろな職種、資格を持った方が関わっていくことで人材の問題が緩和されるのでは…と考えたが、生協病院ではどう考えているか(資格が必要な職種と不要な職種)? →『上伊那生協病院』…木下社会福祉士 “介護補助”として、シフト交換等、資格がなくても可能なものはアルバイトに依頼し始めている。その他の専門的な支援は介護士等が対応している。しかし人数が確保できている訳ではないので検討の余地はある。 					

・老健の人材不足→全てに関わってくる問題なので、圏域として何とか工夫できないか、ということで課題としている。
 職種の問題？、業務の問題？、そこに至るまでに何かしら行政の方で繋ぎ、研修等で介入できないか？行政の立場から話せることがあれば…。
 →今後も多方面で関わりながら検討していきたい。

●事務所に關して

・単刀直入に言うと、生活介護に対するニーズが大きくなっている。

-保護者より-

生活介護事業所が地域で少ないということで、利用したいと思っても繋がらない現状がある。特に駒ヶ根市は少ないので何とかお願いしたい。また全般的に定員いっぱい聞く。なかなか新規…というのは厳しいと思うので、既存の施設で利用できる様に対応して頂ければと思っている。また強度行動障がいや行動障がいがある等、『つくしグループ』にいても障がいの幅が広がっていると感じているので、生活介護を幅広く利用できればと思っている。

・既存の施設利用が拡大している。

生活介護の利用で障がいの幅が広がっている一方で、単価が低いことが問題の一つ。

共生型…指定を取るのが大変。

入浴できるのが当たり前、という考えではないのが現状。

●『ほっとジョイブ』、『伊那ゆいま〜』の生活介護に期待する声が多い。『ほっとジョイブ』は現在利用されている方を想定して必要ではないかということで対応、『伊那ゆいま〜』は新築移転の際に配慮されるのか、現状を聞きたい。

・ほっとジョイブ(三澤所長)

昨年4月に移転して、就労B型と生活介護を行なっている。入浴は利用者の中で希望があれば対応している。特殊浴槽、車椅子の方が利用可能で、ゆっくり一人で楽しんでもらうことをコンセプトとしている。

・伊那ゆいま〜(宮下所長)

10年前より簡易なリフト浴を行なっている。昨年度からの例だが、障がい福祉サービスなので本来は児童の受入れはしていないが、南箕輪村の協力でタイムケアで1名受入れている。

再来年度、施設の新築移転を予定しており、その際には入浴を生活介護の一部として入れていきたいと考えている。保護者からのニーズを受け入れていければ…。

→『ほっとジョイブ』は今まで利用していた方を基準にして設備を作ったと聞いていたので、『つくしグループ』の児童が行くとなると戸惑ったり、寝たままの特浴しかないという状況があった。つくしグループの児童たちが困っているという声を施設の方に聞いてもらいたいとずっと思っていた。入浴のことばかりでなく、大きいフロアが苦手な子や休息を取る必要がある子がいると同じフロアでは厳しい等、の要望もある。また看護師が常駐していることは期待に繋がる。生活介護をするという時には利用したいものがあるという実際の声を届けたいと思っているので、是非学校にも声を掛けてもらいたい。

(宮下所長)

新築移転を目指しているが、明確には決まっていない。今年度補助金が見つからないと移転もできず、『ゆいま〜』の事業自体が空中分解してしまう可能性がある為、ご理解、御協力を願いたい。地域で生活介護を新しい事業として展開していく際、『つくしグループ』の児童が持っている様な潜在的ニーズがあると思うので「どこで」、「どういふ」ニーズがあるのかを吸い上げる機関がほしい(重心部会?)。

◎大きな問題の一つとして、人材育成にも関連してくるが看護師不足がある。

『大萱の里』では本来3名いなくてはならないが、最近ようやくフルタイムではないが1名雇用できた。また、他の施設では1名准看護師の資格を取ってもらったが、実際はなかなか難しい面も多い。派遣で来てもらい対応している。

●医療現場でも看護師不足が深刻になっている。

・准看護師…雇用まで結びついていない。

・結果として、福祉の現場では看護師をシェアするしかない。医療的ケアを必要としている方も常時必要としている訳ではない。人材不足だけでなく、一つの事業所だけで対応していかなくてはならないという時代ではない。

ー市町村から何か発言して頂けないか？

南箕輪村…村だけでは対応が難しい。関係機関と話をしていければ…。

駒ヶ根市…医療的ケアを必要とする方の為に行政が看護師を確保して派遣ということも考えたが、行政でも看護師の確保は厳しかった。

ー工夫していても解決しない現実がある。県の事業として派遣がある？ →就労の方に…。

(伊那保健福祉事務所・鳥羽係長)

・詳しいことは分からないが、訪問看護ステーションから看護師を派遣して補助をしていくことだと思われる。

・生活介護で1名常駐しなくてはならない基準になっている。福祉事業所に1名だけいることが、もしかしたら働きづらいイメージがあるのかもしれない。先進的に政策として取り組んでいかないと解決には至らない。

→市町村、圏域として福祉事業所にいる看護師をフォローできる体制作りを考えていかなくてはならない時期が来ているのだと思う。

●もう一つの問題として…日曜日問題がある。日曜日に対応してもらえる事業所がない。

・現状では制度上無理がある。でも「どうしても」というニーズがある場合は受け入れる体制はある。

・受け皿がなくなってしまった。有事の際に緊急ショートステイ可能な入所施設が3ヶ所(西駒郷、悠生寮、大萱の里)。日頃から実習等で関係を築いていきたい。

→『大萱の里』は主に身体障がいがいたが、いきなり初めての方を本当に受け入れることは自信はない。現場の職員は普段からショートステイを利用する等してコミュニケーションが取れていればいいが…環境も変わるし、保護者も不安なのではないか。普段から緊急ショートステイを使いたい場合は、各施設の生活相談員が担当になっていると思うが確認してほしい。

○「何が起きるか分からない」→実習等を通じて理解していきたい。

●移動支援、朝の事業展開に関して

- ・4月から南箕輪村社協で朝の預かり事業を開始。仕事をしているので、朝の登校までの時間預かってもらえ助かっている。
- ・4～5年前から中枢性無呼吸症候群になり、寝てしまうと呼吸停止になることがあることから酸素吸入が必要になる時があり、スクールバスの利用ができなくなったこと、医療的ケアを要する児童の送迎の制度がないということで、現在全く手段がない状態。是非、医療的ケアを要する児童が利用できる移動手段を検討してほしい。
→実現できて嬉しいものと、これから実現させていきたいものがある。これからも協力をお願いしたい。

○伊那養Co.より

今現在、県下の養護学校で課題となっているものが朝の移動、保護者は家計を支えつつ、また働きながらとなると状況はたいへん厳しい。PTA連絡会、各圏域等で働きかけている。上伊那圏域は理解があり検討、協力してもらえている。一歩進んでいくには大きなところ。大前提が変わらない中、個別相談を受けながら対応していくのか、また大枠を変えていくのかどちらがいいのか模索中。そこへ更に医療的ケアが重なってしまうとハードルが上がってしまうかもしれないが、課題を抱えているという認識で進めていきたい。

●災害対策に関して

日頃から避難訓練をしている中で見えてくるものもあるが手探り状態。一つの方法として『在宅避難』がある。

【保護者より】

とにかく不安でいっぱい。「車椅子で避難場所まで行っていいのだろうか？」という思いもある。一つの方法として『在宅避難』がある(建物が自宅待機でいい状態にあるか判断の上になるが…)。避難レベル1～5のうち、要支援の人はレベル3で避難開始となる。だが実際は困難。自宅にいるということは助けを求めることもできない状態と同じ。先日、消防関係者と話をした際、災害時には地域レベルで支えるしかないとのことであった。在宅避難をせざるを得ない人がいるという事実と、どこに在宅避難者がいるのか把握していく方法を検討してもらいたい。市町村に相談したところ看板を出しておいてほしい、避難所に連絡して意思表示しておけば…というのが、ぜひ検討してもらいたい。

○行政とともに歩んでいきたい課題。現在、行政内で何か対策はあるのか？

- ・辰野町…社協が製作している防災マップ的なものがあり、要支援者の有無も記載されている。行政がすぐに立ち入れない様な災害が発生した際には各地区ごとの対応になってくるので、区役員や民生委員等に伝えておくことも必要ではないか？
- ・駒ヶ根市…各市町村ごとに対策に差がある。どこでどれだけ進んでいるのか把握まではしていない。駒ヶ根市の場合、各班長に班人の名簿集めをしてもらい、日中の所在まで明確にしていく中で要支援者の把握をしている。それを自治組合長、区長に報告。隣組の中で誰がいるのかを理解した上で訓練を実施している。上伊那圏域では要支援者名簿を作ることになっており、各関係機関とも情報共有は可能。ただ、いつどの様な災害が発生するのか分からず、その際は職員も慌てている。実際にどう動いていくのか等、細かい部分まで対応は困難だと思われるので都度検討を。

【かいご家・松本代表】

・避難する場合、物資が届くのかも問題。その際は福祉事務所も頼ってもらえればと思う。東日本大震災の際、GHや小さな通所施設にも避難している人がいたが物資は届いていなかった。状況は改善されているし施設ごとで備蓄は持っているの、そこを頼っても構わないと思う。

○地域との連携という点で…

信濃医療福祉センターでは、災害発生時に地域住民が入所している重心の子どもたちを“自分の担当”として一緒に避難してくれている。
→今後、その様な仕組みを取り入れられたら、検討していけたらと思う。

●自傷、強度行動障がいに関して

【保護者より】

自傷があり、どの様に支援していけば、育てていけばいいか分からない。またどこに相談していけばいいのかも分からない。終日マンツーマンで対応。負担が大きくなっている。制限はあるが家庭で過ごした方がいいのか、また事業所等を利用して、本人が好きな様に過ごした方がいいのかアドバイスがほしい。

・西駒郷(有賀日中支援課長)

2～3年前から強度行動障がいについて受け入れをしている。最近はショートステイも受け入れ。スキルも模索中だが向上している。自傷するには何か意味がある。意味を理解する為にアセスメントを取っている。刺激には敏感に反応。まずは個室で対応。逆に教えてほしいこともあり、一緒に考えていきたい。

・『わが家のわ』坂井田代表

職員にも強度行動援護従事者の資格を取ってもらっている。できる範囲で対応しているが人材不足を理由に断ることもある。現在は受けている方のみ対応。利用している利用者一人が中学から行動援護で利用(21歳)。小さい頃からサービスを利用し続けていった結果、理由が明確になり、他の事業所も利用できる様になる。細々でも福祉サービスを利用し、地域の会議に出席する等でも関係を繋いでいく。早くから対応しておく、歳を重ねた時に穏やか。急に来てもらってもお互いに厳しい。

【保護者より】

つくしグループの中では歩行可能だが、母に対しては甘えがあり歩いてくれないこともある。原因不明の関節や皮膚が柔らかい症状がある。医療的にも母的にもこれからどうなっていくか分からない。小さい頃から『わが家のわ』を利用している。先日の支援会議でマンツーマンでの対応から徐々に集団での生活に慣れていくことも大切との結論になった。言っていることを理解していることが多くなっており、事業所を利用した方が好ましいと考えている。仕事の関係や妹の行事等でどうしても週末に預けたいことがあるが、事前に相談しておけば対応を検討してもらえる。預けることや地域と関わることを前向きに考えていきたい。

まとめ

定期的に保護者からの意見を聞きつつ、圏域、部会として取り組めるものを今後も検討していく。生活介護事業所、入浴支援に関しては引き続き事業所や市町村と相談しながら対応していく。

次回

(記録者) 相野田